

弘前市立博物館 ニュースレター

No. 1

令和5年6月号

Hirozaki City Museum Newsletter

■ ニュースレター創刊にあたって

このたび、弘前市立博物館では博物館での展示の様子や研究成果などを市民のみなさまに知っていただくねらいから、ニュースレターを発行することにいたしました。

展示・調査研究の中で判明したことや、現在の展示の見どころなどをお伝えすべく、学芸員や職員が毎号、執筆・編集する予定です。

当面はインターネット上のホームページに掲載してまいりますので、博物館の「いま」を感じていただけたら幸いです。 (館長 熊谷)

■ ここにも注目！「隙あらば猫～町田尚子絵本原画展～」

たくさんの個性豊かな猫たちが弘前にやってきます。画家・絵本作家である町田尚子の原画作品展です。

今回は、作品を活かした印刷物に注目！我々が「いのっち」を持った猫、タイトルは「宝物」。弘前市立博物館の一番の宝物を持った猫がたたずんでいるのは、前川建築の特徴「赤いシャッター」の前。

当館では多分初となるポストカードタイプのフライヤー(チラシ)を作成しました。関係各所に配布したところ、展覧会開催前から大好評！来場者には受付でおひとり1枚をプレ

ゼントいたします。たくさんご用意しておりますが、品切れの際はご容赦ください。

(「隙あらば猫」担当学芸員 小田桐)



▲「隙あらば猫」ポストカードチラシ

■ 企画展1「花と鳥」を終えて

今年度第一弾の展覧会は「花と鳥～描かれた生きものたち～」と題しまして、博物館の数ある収蔵作品群より、花鳥画に加え広く“生きもの”を題材にした多種多様の作品をご紹介します。

そのバリエーションは、古くは江戸時代の絵師の手による日本画や、塗師が制作した漆器。あるいは明治・大正・昭和期の画家による洋画まで、多岐にわたりました。

今年は弘前公園の桜も開花が例年より早く、本展覧会の開催と同時に

花見がてら当館を訪れてくださる観覧者で賑わいました。皆さんそれぞれ好みの作品(生きものたち)を丹念に鑑賞しておられました。

また第2会場では、同時開催として令和以降に当館に収蔵された資料を「新収蔵品展」と銘打ってご紹介しました。当館では歴史系博物館として、津軽地方及び弘前地域に関する歴史、美術工芸その他の資料を収集しています。市民の皆さんをはじめ津軽ゆかりの方々の日頃のご支援に、心より感謝申し上げます。

(「花と鳥」担当学芸員 三國)



▲「花と鳥」ポスター

■ 職員紹介

はじめまして！今年度から新しく学芸員として弘前市立博物館へ入り

ました工藤と申します。

秋田県由利本荘市の出身です。進学や就職で北海道札幌市・小樽市・静岡県静岡市などを経由して、今回弘前市へ参りました。

専門は日本史、特に近世(江戸時代)の関所など交通や旅にかかわるテーマを研究していました。学生時代の卒業論文・修士論文では、現在の神奈川県にあった箱根関所を通る旅人の関所手形(通行証)の発行の仕方や、実際に旅人をチェックする関所や藩の方針を当時の役人の記録などから考察しました。

今後は弘前を中心とした地域の豊富な歴史資料を生かした調査研究や、多彩なジャンルの博物館資料を生かした企画展示にチャレンジしたいと思っています。みなさまへ地域の持つ歴史や文化の特徴や面白さを十分に伝えられるようがんばります。

どうぞよろしくお願いいたします！
(主事兼学芸員 工藤)

■「赤石愛太郎仇討一件」の展示を終えて

5月に終了した企画展「花と鳥」と同期間、歴史展示室で「赤石愛太郎仇討一件」というミニ展示を行いました。

赤石愛太郎は、幕末の弘前藩士です。幼いころに父を亡くし母と別れました。

その母親が吉之進という男に殺されたことを知ると、藩に仇討ちの願いを申し出ます。しかし、藩からの許可は得られませんでした。そこ

で、脱藩の罪を犯して、吉之進を追い、嘉永7年(1854)6月25日に、水戸(現茨城県)の地で遂に吉之進を討ち取ります。母の仇討ちを果たした愛太郎は、幕府の詮議を受けるために江戸に搬送される途中で自刃して亡くなりました。

この事件は、稀にみる孝行として評判となり、かわら版なども発行されました。江戸時代を通じて、母の仇討は珍しい事件でした。

弘前藩では、子どものなかった愛太郎に養子を取り、赤石家を再興させました。愛太郎の跡を継いだ養子の行三は後に弘前市長を務めました。

愛太郎の関連資料は、曳家前には弘前城の天守で展示されていましたが、曳家を機に博物館へ移管されました。また、ご遺族からの資料寄贈もあり、まとまった形で少しずつ赤石家について知ることができるようになりました。

展示の際に、この中から、愛太郎所用の財布を調査したところ、布の表地と裏地の間に挟み込まれたような紙を発見しました。広げてみると、神仏への願文が書かれており、仇討の成功を祈念したものであることが分かりました。

(主査兼学芸員 小田桐)

■ 鱒ヶ沢町とのコラボ「日本海中部地震 40 周年パネル展」開催中

日本海中部地震は、昭和 58 年(1983)5月26日11時59分、秋田県の能代市西方沖 80 km で発生した逆断層型の地震です。この地

震から今年の 5 月 26 日で 40 周年となります。地域における防災・減災の教訓として伝えられるよう、パネル展を開催しています。

▽日時 令和5年5月 25 日(木)～6月9日(金) 8:30～17:00(6月3日(土)・4日(日)休み)

▽場所 弘前市岩木総合支所(弘前市賀田1丁目1-1)2階ラウンジ
▽料金 無料(自由見学)

▽鱒ヶ沢町での展示は、海の駅わんど(鱒ヶ沢町大字本町 246-4)で11日(日)まで行われます。詳しくは、鱒ヶ沢町の広報をご覧ください。



▲「日本海中部地震 40 周年パネル展」のようす

■ 受付のひとりごと

今までコロナ禍で記念スタンプや図録の見本など、受付カウンター内に置いていましたが、3年ぶりにロビーにスタンプ台を復活させました。

お客様が自由にスタンプや冊子の見本を手に取り、活用できるようになりました。スタンプは展覧会ごとに作製しています。来館の際は記念としてスタンプなどお楽しみください。
(事務員 小野美)

